



Enterprise Architect 9.3 feature guide

by SparxSystems Japan

Enterprise Architect 9.3 機能ガイド

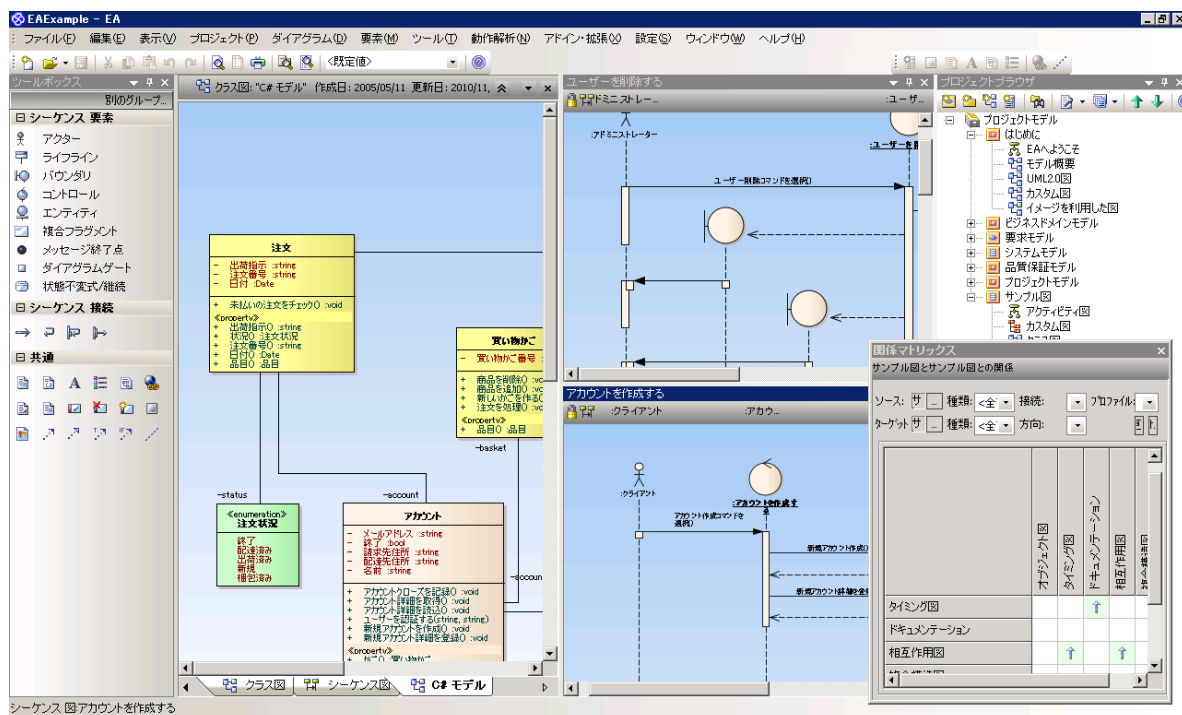
(2012/3/7 最終更新)



このドキュメントでは、Enterprise Architect 9.3 で追加・改善される機能についてご紹介します。青字の文字は操作方法を示しています。

複数のダイアグラム・ビューを開く

バージョン 9.3 では、複数のダイアグラムや、関係マトリックスなどのビューを自由に組み合わせる配置・表示できるようになりました。下の画像の例では、クラス図 1 つとシーケンス図 2 つを並べて配置し、さらに関係マトリックスを移動可能なウィンドウとして独立させています。



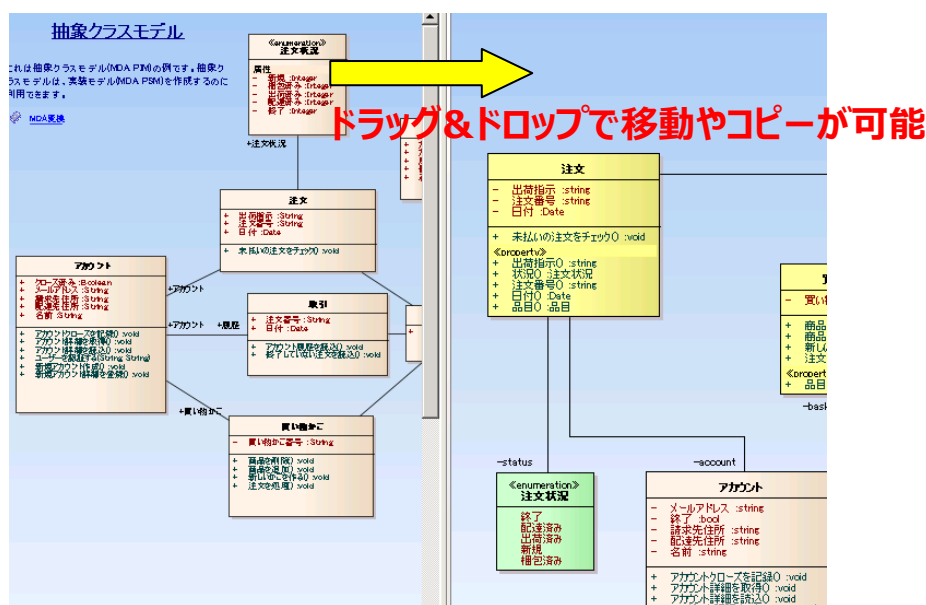
複数のダイアグラムを開く方法はとても簡単です。ダイアグラムのタブをドラッグすると移動可能な(独立した)ウィンドウになります。このウィンドウは既存のサブウィンドウと全く同じ扱いになりますので、好きな位置に配置して複数のウィンドウを並べたり、まとめたりすることができます。

なお、ダイアグラムだけではなく、ビューも並べることができます。関係マトリックスと関係するダイアグラムを並べたり、検索結果を表示したまま他のダイアグラムを表示したりすることができます。



さらに、複数のダイアグラムを開いている場合には、要素のコピーや移動も行うことができます。ダイアグラム内の要素を別のダイアグラム内にドラッグ&ドロップすれば、ダイアグラム間で要素を移動したりコピーしたりすることができます。クラス図の内容を見ながらシーケンス図に配置する場合など、異なる種類のダイアグラム間でも利用できます。複数の要素をまとめてドラッグすることもできます。

- ・ SHIFT キーを押しながらドラッグ→移動
- ・ ALT キーを押しながらドラッグ→リンクとして(同じ要素として)貼り付け
- ・ CTRL キーを押しながらドラッグ→新規要素として貼り付け



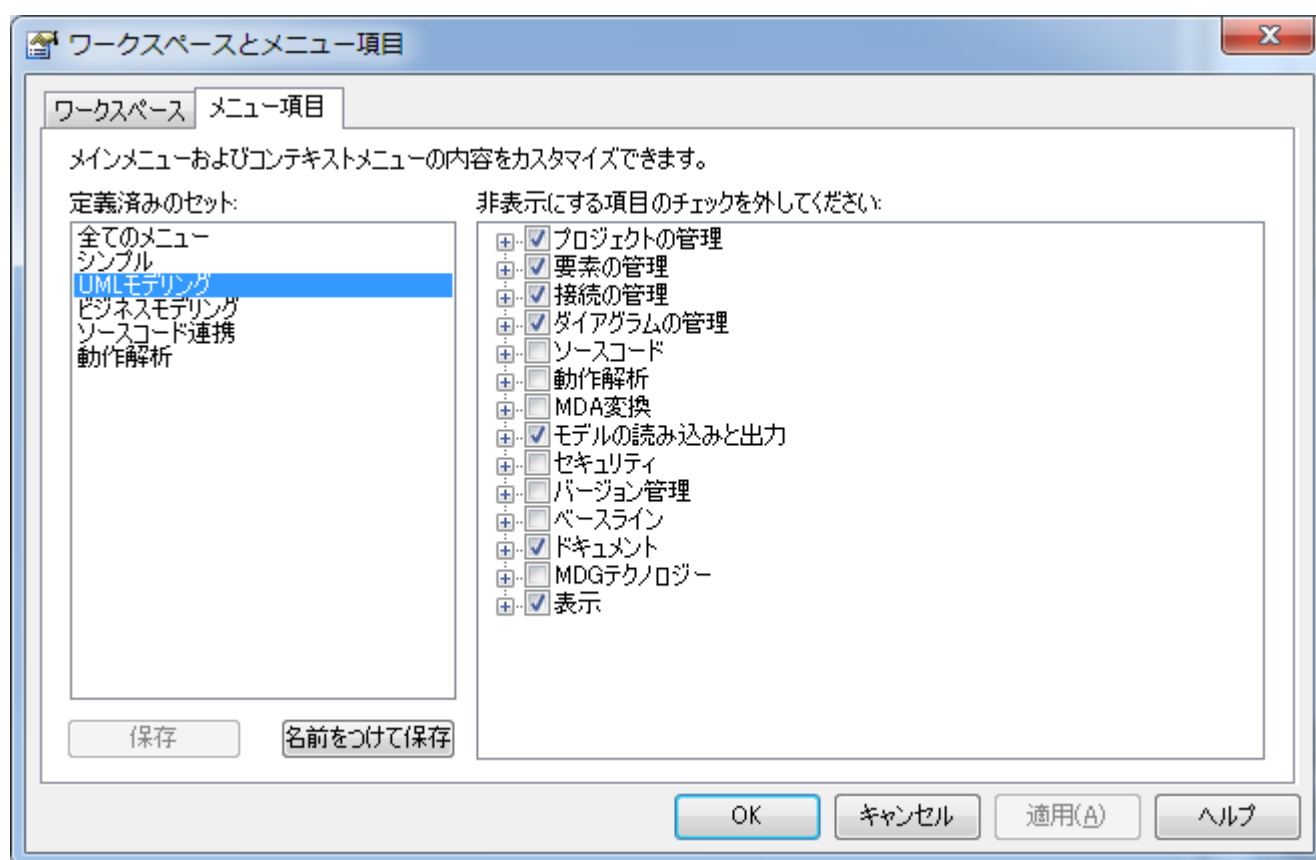
さらに、配置したウィンドウの状態は、ワークセット機能を利用することで名前をつけて保存し、いつでも呼び出すことができます。

(ワークセットの呼び出しは、メインメニューから「表示」→「ユーザーの情報」を実行してユーザーの情報サブウィンドウを表示させ、「ワークセット」のタブを選択してください。)

メニューのカスタマイズ

Enterprise Architect のメニューは、メインメニューは今までもカスタマイズ可能でしたが、バージョン 9.3 ではコンテキストメニューを含めて表示の有無をカスタマイズできるようになりました。

カスタマイズした内容は「メニュー項目定義」として名前をつけて保存できます。必要に応じて自由に呼び出して適用することができます。目的別にメニュー項目定義を複数定義して切り替えたり、(特に利用の初期段階において)不要なメニュー項目を非表示にしたりすることができます。



(メインメニューから、「表示」→「ワークスペースとメニュー項目」を実行して、ワークスペースとメニュー項目ダイアログを表示させます。「メニュー項目」タブで、定義済みのセットを呼び出したり、独自のセットを定義したりすることができます。)

状態遷移表上でのシミュレーション

ステートマシン図でのシミュレーションに加えて、状態遷移表上でもシミュレーション機能を実行できるようになりました。設定や利用の方法はステートマシン図の場合と同じです。

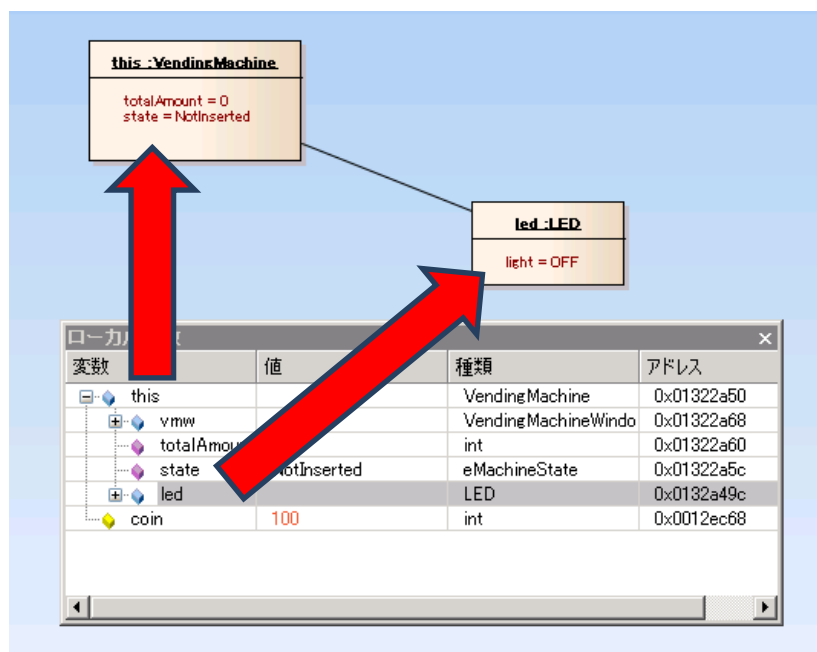
状態遷移表での実行時には、実行中の状態に関する状態やトリガが強調表示され、他の状態は薄く表示されます。状態遷移表の中のトリガのセルを右クリックして表示されるコンテキストメニューから、トリガを発行することもできます。

状態 \ トリガ		ON	OFF	検知	開動作完了	<なし>
		E0	E1	E2	E3	E4
OFF	S0					S1
	S1	S3				
ON	S2		S1			
	開鎖 S3			S4		
	開放中 S4					S5
	開放 S5					[sim.t < 3] S5
	開鎖中 S6			S4	S3	[sim.t >= 3] S6

デバッグ中の情報からオブジェクト図の作成支援

Enterprise Architect のデバッグ機能を利用して、任意のタイミングでのオブジェクト図の作成を効率的に行うことができます。

オブジェクトの情報を取得したい位置にブレークポイントを配置して、デバッグを実行します。デバッグが停止したら、ローカル変数サブウィンドウ内の項目をオブジェクト図にドラッグ&ドロップすることで、簡単にオブジェクト要素を作成できます。



その際に、上の図のように、オブジェクトには属性の値が表示されます。また、オブジェクト間には関連が自動的に作成されます。

初期設定ウィザードの追加

サブウィンドウの配置(ワークスペースレイアウト)や利用するモデル記法(MDG テクノロジー)などを設定できる、初期設定ウィザードを追加しました。このウィザードにより、特にはじめて利用する場合に、Enterprise Architect の環境の設定をわかりやすく行うことができます。

初期設定ウィザードは、はじめてバージョン 9.3 を起動する際に実行するかどうか確認メッセージが表示される他、スタートページからいつでも呼び出すことができます。

また、この変更に伴い、インストーラの動作を変更し、BPMN 等の利用の有無をインストーラではなく初期設定ウィザードから変更するようになりました。

その他の改善

- Archimate 2.0 に対応しました。
- ArcGIS についていくつかの改善・強化を行いました。
- 作成したワークセットを共有できるようになりました。
(作成したワークセットを右クリックし、「ワークセットの共有」を選択)
- ソースコードエディタ内で、ブレークポイントをドラッグして移動できるようになりました。
- ダイアグラムのプロパティから、SysML の要素に表示される区画のうちいくつかについて、表示/非表示が設定できるようになりました。
- シーケンス図の自動生成機能で、複数のインスタンス(オブジェクト)が存在する場合に、シーケンス図内

に表現される上限値を設定できるようになりました。

- FTA(フォルトツリー解析)および SDL 図を、インストーラに含めました。
- バージョン管理機能でチェックイン時にキャンセルした場合に、チェックアウト状態を維持するように修正しました。
- シナリオのステップ内で参照している要素を削除した場合に、ステップ内の文字列を削除する動作を変更し、削除しないようにしました。